

# 28Q-am168

Space Therapy—宇宙に対する女子大生の意識—

○松本 仁<sup>1</sup>, 青山 祐二<sup>2</sup>, 磯部 明彦<sup>3</sup>(<sup>1</sup>JP 予防医学研究所, <sup>2</sup>修紅短期大学, <sup>3</sup>群馬県立女子大学)

[目的] 現在、日本の医療行政は完全に行き詰まっている。そのため、国は、病気に対してこれまでの治療医学のほかに予防医学を重視する方針を立てた。これによって、従来の西洋医学一辺倒から、東洋医学、音楽療法、香り療法、食事療法、運動療法、芸術療法などの代替医療が、これまで以上に注目を集めるようになった。これらの代替医療は、多くの国民に知れわたっているが、Space Therapy (宇宙療法)を知っている人は、皆無に等しく、それに関する研究報告も殆ど見当たらない。そこで、我々は、Space Therapy が予防医学に役立つか否かを検証する目的で本研究を開始することにした。

[実験方法] 宇宙に関するアンケート項目を作成して、A 女子大学の学生 (80 人) にアンケートを実施した。アンケート結果を集計して、Space 関連現象が Therapy になり得るか、および予防医学に展開可能か否かを考察した。

[結果・考察] 宇宙関連現象に対する感じ方は多岐に渡っており、個人差がかなり見られた。プラネタリウム、星座、月、地球、流星を見て、45-88 % の学生が何かを感じていた。これらの宇宙関連現象に対して 5-30 % 人が癒し・安らぎを、4-18 % 人が安心・リラックスを感じていた。また、癒し・安らぎを感じる空があると答えた学生が 75 % に達し、その空のうち、夕焼け空が全体の約 40 % 占めていた。他に、きれい・美しい、偉大・すごい、ロマンなどといった精神的にプラスになるような感じを抱いた学生が、それぞれ 4-16 % 存在した。

以上の結果から、その人に適した宇宙関連現象を用いれば、Space は Therapy として予防医学に十分に役立つものと思われる。